



ホームケアのポイント

けいれんとは、からだ全体やからだの一部がつっぱたり、ピクピクしたり、脱力したりすることです。

まずはあわてないことが重要です！

- 1 周囲に危険物があれば、取り除く。
- 2 けいれんの途中、吐いても吸い込んで窒息しないように、顔を横に向ける（できれば左側を下に）。
- 3 呼吸しやすくするため、頭をうしろにそらしたり（ただし、首がつっぱっているときは無理しない）、衣服をゆるめる。
- 4 以上を実行したうえで、よく観察する。

何分続いたか、目（ひっくり返った、一点をじっと見た）の位置、手足の動き（特に、左右対称か）、終わってから泣いたか、眠ったか、呼んで反応したか。

※すでに熱性痙攣ねっせいけいれんの診断でダイアアップ（坐薬）を処方されている場合、まだ使用していないときはすぐに使用してください。それ以外の刺激はできるだけ避けてください。飲み薬を飲ませてはいけません。



注意すること

- 口の中に物や指を入れない。
ふつうは舌をかむことはありません。口の中に指や物をいれると、口の中を傷つけたり、歯が抜けたら、舌を押し込んで窒息するもとになったりするので危険です。
- ゆすったり、たたいたり、飲み物や飲み薬を与えたりしない。

けいれんじゅうせき

痙攣重積けいれんについて

痙攣けいれんが20分以上止まらない状態や、痙攣が止まった後に意識が戻らないまま次の痙攣が起ることを痙攣重積けいれんじゅうせきといいます。痙攣重積は脳に重大な病気があるかもしれませんし、たとえ熱性痙攣であっても呼吸のできない状態が長時間になれば脳に障害を残す可能性もあり、緊急の対応を必要とします。救急車を呼んでも到着までに平均6分を要し、医療機関に着くまでに15分ぐらいはかかります。痙攣が5分以上続く時は躊躇ちゅうちよせずに救急車を呼びましょう。救急車が到着したときにすでに痙攣が止まり、意識もしっかり戻って顔色もよければ、搬送を断って医療機関を受診してください。